

# WEST 政策発表会 (大阪府政策提言ツアー) 学生レポート

訪問日時: 2019年 2月 22日 午後 2時半から 5時半

参加者: WEST 大会優秀賞受賞チームほか (大阪大学・関西学院大学)

WEST で優秀賞に選ばれたチームが、実際の政策を策定する担当者の前で政策を提案する場として、大阪府の協力の下で、大阪府への政策提言ツアーを実施した。



## WEST 論文研究政策発表会(大学生との意見交換会)次第

日 時:平成 31 年 2 月 22 日(金)

場 所:大阪府庁本館5階 議会特別会議室(大)

14:30~14:35 **開 会**

14:35~15:25 **第1部 発表論文に関する意見交換会**

(14:35~15:00)

・大阪大学・赤井研究室・大石班 「災害復旧制度におけるモラルハザードの検証」

(15:00~15:25)

・大阪大学・赤井研究室・法川班 「水害からの「逃げ遅れゼロ」を目指して」

15:25~15:30 <休憩>

15:30~17:10 **第2部 受賞論文に関する意見交換会**

【最優秀賞受賞】

(15:30~15:55)

・関西学院大学・栗田研究室・村上班 「路上生活者における社会的排除の現状」

【優秀賞受賞】

(15:55~16:20)

・大阪大学・赤井研究室・沖田班(伊藤班) 「スポーツ政策による健康日本の実現」

(16:20~16:45)

・大阪大学・山内研究室・白木班 「老朽化する社会資本のリノベーションに関する実証分析」

(16:45~17:10)

・大阪大学・山内研究室・久保班 「介護人材の質向上と定着促進に関する実証分析」

※プレゼンテーション 15 分、意見交換 10 分

17:10~17:30 **事務局からの報告**

・改革評価プロジェクトについて

大阪府への政策提言ツアーは、政策企画部企画室の協力を得て実施するもので、今回で5回目となる。本年度は、優秀賞ほかを得たチームを含む6チームが参加し、政策企画部や副知事に加え、政策提言分野を所管する、大阪府の担当部局の政策立案担当者の前で、政策提言を行った。時間をかけて、課題、解決のための政策について、説得性を高めてきただけあって、政策立案担当者とも議論が出来るレベルになっていたと思われる。社会では、データがなくイメージで議論されていることを受けて、大学では、エビデンスベースの議論、つまり、データに基づいて議論する訓練をしているが、一方で、「データから結果が得られたので正しい」というよう気持ちで主張すると、実際の現場の担当者には伝わりにくいという側面も見えた。このように、学生にとっては、今後社会において社会問題を議論する準備としての良い経験になったと思われる。実施後のアンケートでは、参加学生ほぼ全員が満足との回答をした。今後に向けては、分析時に悩んだ点に関して、学生から政策担当者に質問する時間や、政策担当者の政策の悩みを聞く時間を設けるのも良いかもしれない。以下に、学生の感想をまとめる。

文責 赤井伸郎

### **今回の大阪府への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと、学んだこと**

1. 学生の政策提言の対象が都道府県ではなく国の場合、行政の方も意見を出す立場が難しいように感じた面はあった。学者の方がいない分、提言内容自体を重点的に見る人が多いように感じたので、実際に行政官の方に納得してもらうには、「何を」「どのようにするのか」が伝わりやすいような話し方をする必要があるように感じた。府庁施設自体は古いが清潔な雰囲気を保っていると思った。
2. 提言については、自分たちの内容が市町村向けだったということもあり、感触としては良いものだったと思います。また、提言後感じたことは、やはり府庁の方々も効果的な事例を知ることができておらず、現場の有効事例を府庁のマネジメント層に伝えることも自分たちの大切な役割なのかなと思いました。また、大阪府の庁舎に入ったのは初めてでしたが、最近では民間のオフィスを見ていたということもあり、思っていた以上に古めだなと感じたのが印象です。ただ、府庁担当者の方々は、大阪の政治についてより真剣に取り組んでいらっしたということは今も強く印象に残っています。
3. 自分たちの政策提言を行政で実際に政策を考えているプロの方に見ていただく初めての機会でした。発表中は担当者の方が熱心に聞いてくださり、発表後は論文の前提となる部分や本質的なところの問いを受けて、因果関係や前提などの部分は一層厚くリサーチ・説明することが大切なのだと感じました。また、実際に政策に落とすとなった時の障壁や現場の声を伺い、やはり財政面や法律関係、他のステークホルダーとの関係性など、机上では気づかないような難しい問題が存在していることもわかりました。来年はそんな側面もすこし射程に入れながら論文をかけるといいなと思いました。
4. 府庁施設のハード面は古いですが、それでもそれを残し、現在まで維持しているのは素晴らしい。古いものを残しつつ次の時代に進んでいるのが良いと感じられた。また担当者の方たちも自治体に批判的な内容でも、発表内容をじっくり聞き、それを踏まえて質問して下さっており、素晴らしいなと感じた。自分たちがデータで示した結果が必ずしも行政の現場の実情と合致

しないのだなと思った。また自治体の方との議論でも指摘されたが、テータで示した結果と現状の制度との因果関係を証明できないと、現場の実情を分かっていないと言われてしまうのかと痛感した。

5. 政策の現場では、自分たちが思っている以上に、実現可能性や実感できる効果が重視されるということを感じた。いくら定量的な分析で効果があるという結果が出てそれを政策に落とし込んだとしても、論理的かつ現場の状況をしっかりと踏まえた提言が必要であるということも学んだ。また、政策立案においては、市民の感情という数字では捉えられないものもかなり重要であり、それらをしっかりと政策に組み込むには現場の視察が欠かせないということも感じた。府庁担当者の方々はそういった市民目線と行政目線の指摘をされていたので、今後ゼミ内での議論でも取りいれていくべきだと思った。
6. 今回の提言ツアーは自分たちが書いた論文を実務の現場で初めて見てもらえる機会であり、非常に有意義な時間であった。途中からは副知事も参加され、本当に現場に思いをぶつけるという心持ちで臨んだ。提言ツアーを通じて感じたのは実務の現場ではやはり費用対効果に非常に厳しい目をされるということだ。各種政策は毎年の予算内で行われるものであり、たとえテータ上で好ましい政策であっても費用対効果が少なければ、優先度の高い政策に弾かれてしまう。具体的にどのくらいの効果が見込めるのかということも概算でも見積もっておくことが望ましいと痛感した。
7. ISFJ などの論文大会では、理論と実証のつながり、実証分析の厳密性が評価されたが、今回の大阪府への政策提言では、実際の政策担当者ということもあり、現場から見た理論仮説の現実妥当性が厳しく評価された印象を受けた。理論仮説は現実によって絶えず検証されなければならない、理論と現実の相互作用により、理論は発展していくので、今回の提言ツアーで指摘された理論の現実に妥当しない箇所は、まだまだ改善の余地が大きいと感じた。
8. 論文を書いていく中で、ここは自分達の論文の弱点だな、あまり触れてほしくないなと思うところを1度目のみの発表で見事に見抜かれていたなという感じでした。テータではモラルハザードの発生を実証することが出来ましたが、現場からの声で検証することは非常に難しいということも痛感し、ゼミでの最初の議論のことを思い出していました。また、今後はハードとともにソフトの対策の重要性が高まっていることも、別の班の発表での議論から感じました。
9. 実際の業務に取り組んでおられる行政の方に、私たちが1年間かけて取り組んできた成果を発表し、意見をいただくことができ、いい経験になった。行政の方から質問されたところは、私たちも執筆時に悩んでいたところと重なっており、実務の方も日々試行錯誤されているのだろうなと感じた。私たちも、大学生ながら似た経験をすることができたのは、今後に活かせることだと思う。大阪府庁の建物は、何度訪れても趣のある施設だと感じる。職員の皆様はとても話しやすく、学生の意見にも耳を傾けて下さるので、学生にとってありがたい存在だと思う。
10. 大阪府の方は、全体的に柔らかい雰囲気をお持ちの方が多く、こちらもリラックスして発表に臨むことができた。政策の議論に関しては、政策そのものというよりも、学生の視点としてどのようなものがあれば本当に効果のある政策を実行できるかという観点からの質問があった。これは、私たちの政策がまだそうした本質をとらえていないとほぼ同義であると落胆する

反面、私たちが課題をリサーチする中で感じた本源的な問題をぶつけることができ、よかったとも思う。

11. この度の大阪府への政策提言ツアーにおいて、実際に政策策定をされる方々からの意見は、政策効果などを現実的に想像することができる重要な機会となった。私たちはテーマを通して、今の社会に必要なものを考えているつもりだが、テーマだけでは見えないもの、そして実現可能性をもっと考える必要があると感じた。担当者の方や副知事の方々からのご意見は今後の研究をする上でとても大切なものであると改めて感じた。
12. WEST 論文大会ではテーマや分析など経済学からの視点で教授から質問やご指摘をいただいた。大阪府庁では政策提言の実現性について実際に携わっている方々からの意見をいただけたので WEST とは違った目線で考えることができた。大阪大学の方々は日本の国全体、マクロな視点での問題に取り組みされており、規模も大きく政策提言が難しいなか多くの数の政策を考えられていたので素晴らしいと思った。
13. 私たちは現在の日本が直面している問題に対してテーマを使って分析し、その結果から政策提言を考えているが、実際に政策に携わっている方々、また担当者からの意見をお聞きし、実現可能性やその政策の将来的効果について考えさせられた。経済学という学問の中だけで考えるのではなく、現実的な思考が非常に大切であり、その現実的な思考ができるこのような機会は非常に貴重だと感じた。政策を策定し、その効果は1年で効果がでるものではなく、何十年もかけてやっと効果が出るということをお聞きし、政策を策定するにあたってアンケート調査を行ったり、色々な方々から生の声を聞いたりして、人間の思考や行動を理解することが非常に重要だと感じた。
14. どの班も政策提言に凝っていて、政策1のための政策など補完できるようなものまで考えていたことに驚いた。そして政策自体も学生らしさが出ており、やってみる価値があるものが多かったと思った。だから是非とも府庁担当者の方などと協力してもらい、日本の諸問題解決に向けて、何か動いていきたい。また学生だからこそできることも多いと思うのでそこは積極的に活かしていきたい。
15. 私たちの班は、ホームレスの現状について発表した。意見交流の際に、「ホームレスの人々の話を聞いてあげるだけで意味があり、助けることになる」と助言された。実際に、ホームレス撲滅のための研究をしているときに、そういったことは意味あることかと疑問に感じていた。しかし、今回発表する機会をもらい、現場からの意見を頂くことで、自分たちがすべきことの意義が明確になった。今後の活動としては、ホームレスと大学生が交流する機会を増やしていくことが目標である。
16. 政策提言ツアーで最も感じたことは、「論文の上だけでの考えは、現場での考え方の一つの考え方に過ぎない」ということである。自分たちが1年間弱をかけて研究し出した結論は、既に行政の内では知られていることで、行政の方たちは数多くの選択肢の中から政策を施行しているのだろうと思う。そのように考えると、自分たちが論文で目指すことは、目新しい政策や回帰分析から得られた結果のみを反映した政策を考えることではなく、数多くの政策から自分たちが適切だと思う政策を選択してもらえるに足る根拠を示すことなのかもしれないと感じた。

## **今回の大阪府への政策提言ツアー全体への感想および、実際の政策決定を行う担当者との意見交換の場やそのあり方での意見・希望**

1. 夜の交流会で副知事の方や他のゼミの先生方から、大阪や行政に関するいろいろな話を聞くことができたのが一番面白かったので、政策提言ツアーの際にはぜひ交流会も一緒にやってほしいと思った。
2. 夕食の場では副知事の方と少し意見を交わすことができる機会があり、万博開催/IR 施設等、直近の議論をすることができたと思っています。このようなフランクな場での議論の時間をさらに増やしていけるとよいかと思いました。
3. 実際に行政で政策を立てられている方とお話すると、社会における政策の重要性を知ると共に、そこには大きな責任が伴うことがわかり、とても有意義な時間を過ごすことができました。質疑は、もう少し時間に余裕を持たせてもいいのではないかなと思いました。
4. 住民の生活に直接かかわる府庁の職員の方たちを相手に政策を提言し、それについて議論することは非常に有意義だし、行政の役割の深い部分まで知ることができた。実際の政策担当者の方からこの10年間の政策について紹介があり、また今後のビジョンについても説明していただき、政治家の主張するプランとは異なる観点から大阪の成長に何が必要かを知れた。
5. 自分たちが考えた政策を実際に行政の方に見てもらい、意見を頂けるという機会は非常に貴重であり、今回もよい経験になった。このような機会があるということ意識しながら論文を執筆することで、行政の方の視点も考慮しながら政策を考えることができるのでこれからも続けてほしいと思う。
6. 今年は懇親会に各行政職員のみならず、他大学のゼミも参加されており、非常に充実した時間を過ごすことができた。他のゼミがどのような方針のもとで、どのように執筆を進めるのかについて情報交換できて、来年のゼミに活かせる部分も多かったように思う。これからもこのようなたくさんの方が集える機会を増やして行ってほしいと思った。
7. 大阪府の担当の方からの質疑応答に終始した印象を受けたので、今後は、質疑応答にとどまらず、政策に関する建設的な議論が行えたら、より良いと感じた。
8. 昨年に引き続き今回大阪府への政策提言ツアーに参加し、やはり実務の方の意見というもの重要性を感じた。今後も、このように自分達が考えた政策に対し、実務の方からの貴重なご意見を頂戴する場というものは、ぜひ設け続けていただければ幸いです。
9. 私たちが1年間かけて考えた提言が、紙の上で終わってしまうのではなく、実際の行政の方にプレゼンし、意見交換をすることができる機会があるのが赤井ゼミの醍醐味だと思う。今後もこうした場を設けていただけると大変ありがたい。
10. 私たちの考案する政策は必ずしも中央省庁に向けてのものではないので、都道府県レベルの政策提言を行った先にあるものとしてこの大阪府提言ツアーは意義の大きいものであると考える。可能であれば市町村の方ともそうした議論ができれば、私の論文の多様な提言対象の方たちとの意見交換ができるのではないかな。

11. このような機会は、研究を行う上で、1番重要な機会だと感じている。大学で研究しているだけは見えてこないもの、考えられないものを今回の提言ツアーで感じるができる。今後もどちらにとっても重要な機会であり続けるよう努力していきたい。
12. 政策提言の発表終了後、その分野に携わっている方々とお話することができなかったのが残念だ。
13. 担当者の方々からもっとお話を聞きたかった。
14. 実際に府庁担当者前で発表できたのはとても良い機会となった。そして担当者の方からも協力したいというようなレスポンスが頂けた。しかしその担当者の名前を聞きそびれてしまったのが残念だ。
15. 大阪府庁に訪れることなど、滅多にない機会であるので非常にワクワクしながら意見交流会に挑んだ。さらに、実際に意見を交流することで、自分たちの活動意義、目標などがさらに明確化されたと感じた。しかし、発表方法があまりにも固すぎるのではと感じた。全ての班が、原稿を丸暗記し、それをアナウンサーのように発表している感じがあり、専門的な知識がないと理解が難しかった。来年からは、専門的な内容を発表するにしても、誰にでも分かりやすく「プレゼン」を行うことを重視すべきではと感じた。ごちゃごちゃしたスライド内容を、シンプルなものにするなど。
16. 質疑応答の時間をもっと多くとることができればよいなと思ました。特に学生側の考え方を伝える時間が全体として多かったので、行政側の考え方がわかるような時間を設けてもらえると、学生側と行政側の双方に同じくらい有意義な時間になるのではないかと感じました。